

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

■ 1 東寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・境内からは、京都駅周辺や九条通沿いの高層建築物が見えるが、五重塔周辺は植栽が目隠しとなっており、周辺の建築物等は見えない。
- ・東西方向は高層建築物は少ないものの点在しており、土塀の背後に低層建築物の一部とともに見える。



1-1 慶賀門から東への眺望
：大宮通沿いに住宅が立ち並んでいる。



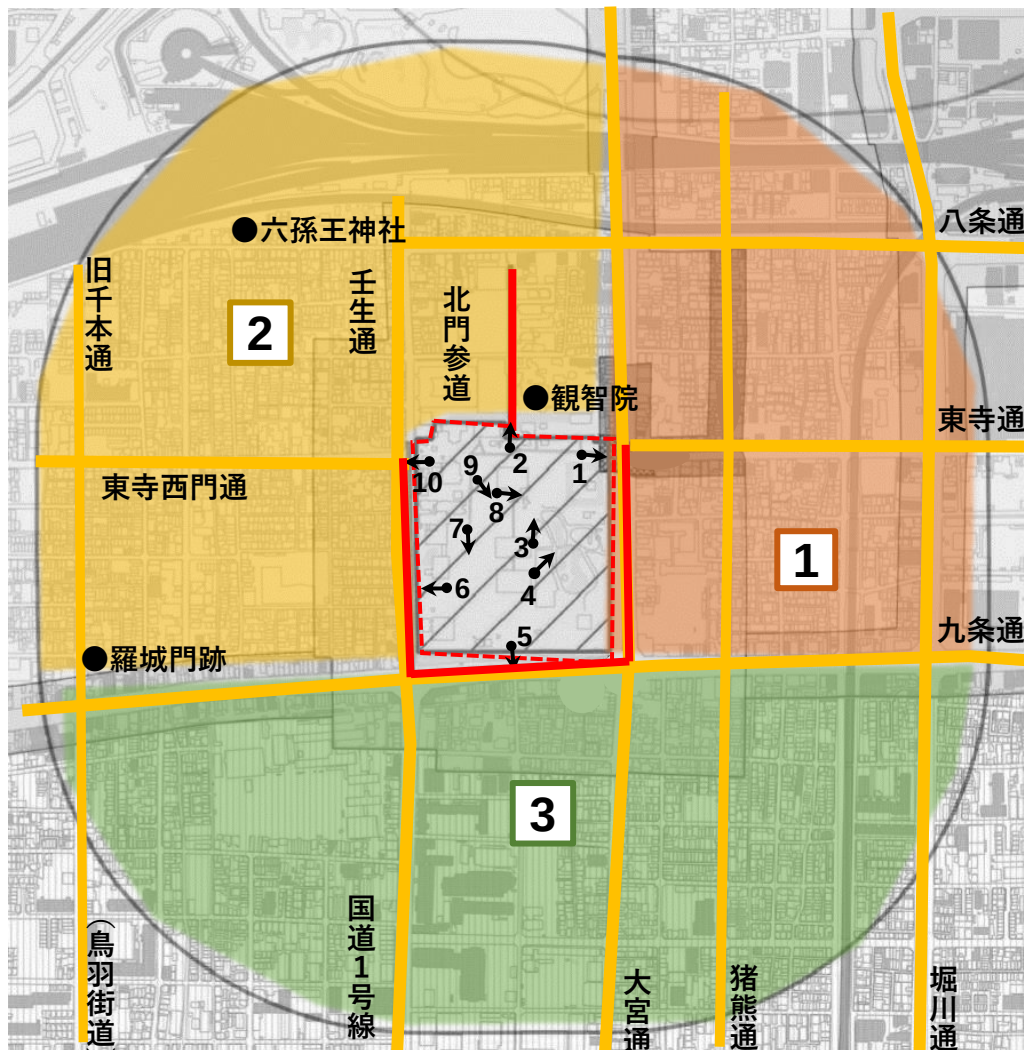
1-2 北大門から北への眺望
：東寺の関連施設が並ぶ統一感のある町並み。



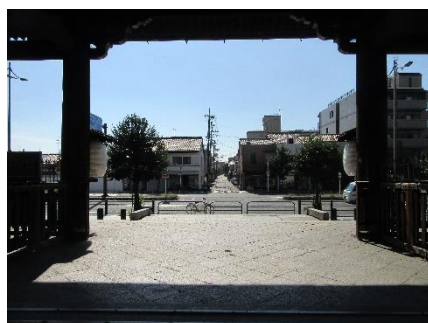
1-3 講堂東側から北への眺望
：境内建築物の背後の所々に中高層建築物が見え、北山の稜線が遠くに見える。



1-4 講堂南東角から北東への眺望
：京都駅ビル、ショッピングセンター等が連なって見える。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



1-5 南大門から南への眺望
：低層住宅等が立ち並ぶ。



1-6 本坊と灌頂院の間から西への眺望
：土塀越しに低層住宅が見える。



1-7 本坊東側から南への眺望
：高層建築物が壁のように林立する。



1-8 食堂南西から東への眺望
：植栽の背後に、高層建築物が見える。



1-9 金堂東から南東への眺望
：樹木により建築物等は見えない。



1-10 西門から西への眺望
：2階建ての家並みが続く。

2 東寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・東寺の外周は土堀、植栽で囲われ、風格のある佇まいである。大きな通りに面しており、古都のランドマークである五重塔を遠くからも見ることができる。
- ・近くの京都駅に通ずるJR線、近鉄線の高架が目立っている。大通りには中高層建築物が立ち並ぶ。



2-1 東寺道から西への眺望
：中低層の建築物が立ち並ぶ。



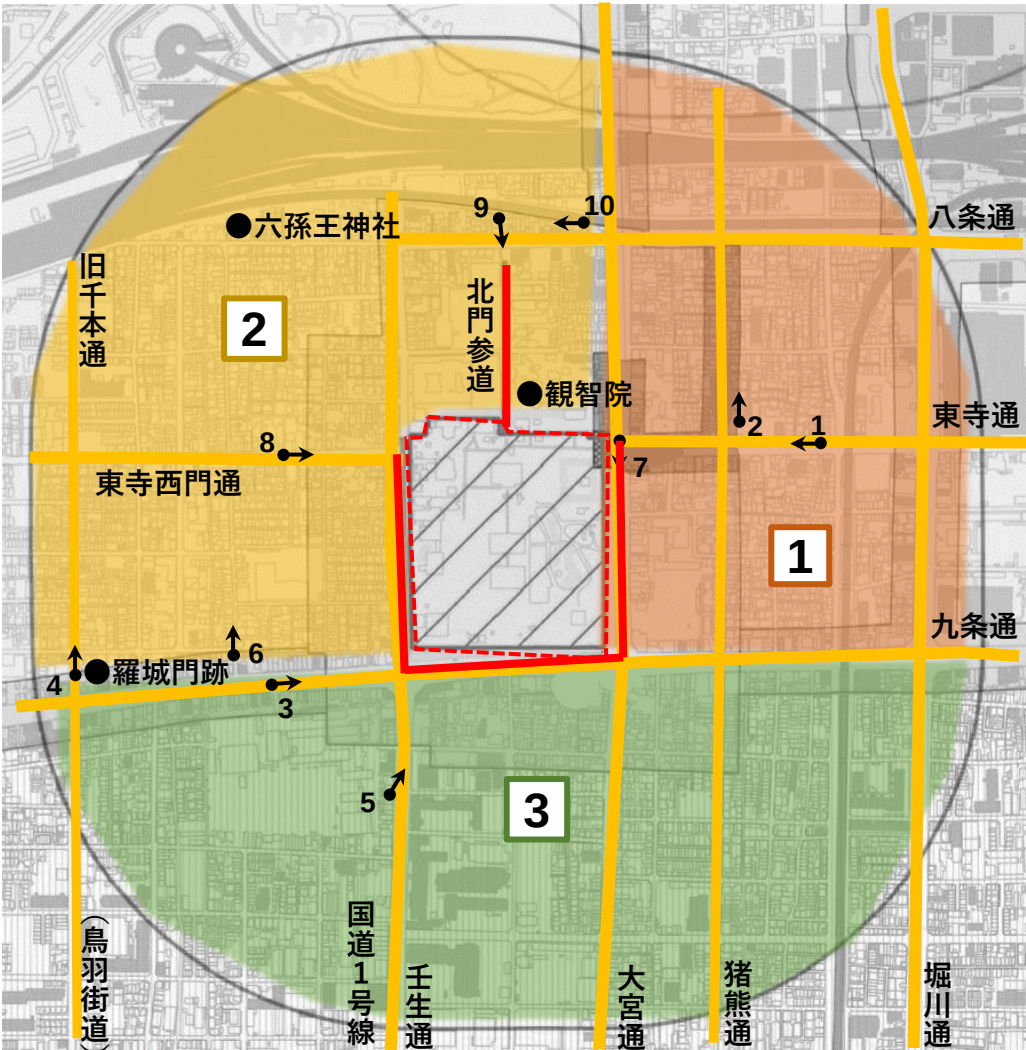
2-2 猪熊通から北への眺望
：落ち着いた町並みが続く。空地を駐車場に活用しているところが多い。



2-3 九条通から東への眺望
：中低層の建築物が立ち並ぶ。遠くからでも五重塔が見える。



2-4 旧千本通から北への眺望
：低層の住宅や商店が立ち並ぶ。



2-5 国道1号線から五重塔への眺望
：離れたところからも五重塔が見える。



2-6 九条御土居から北への眺望
：土蔵のある古い屋敷も残るが、比較的新しい建築物が多い。



2-7 大宮通から南への眺望
：中低層の建築物が立ち並ぶ。遠くからでも五重塔が見える。



2-8 東寺西門通から東への眺望
：周辺には社寺や町家が比較的多く残っている。

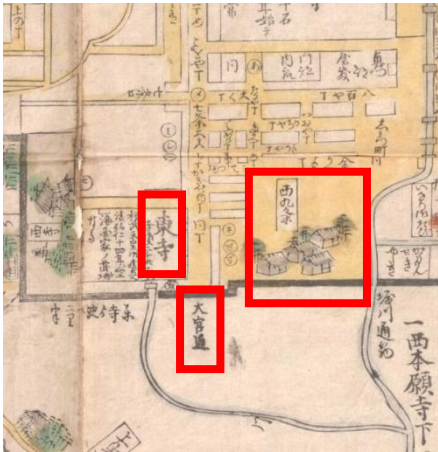
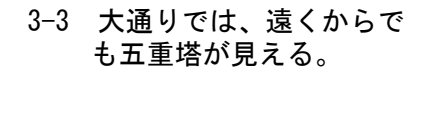


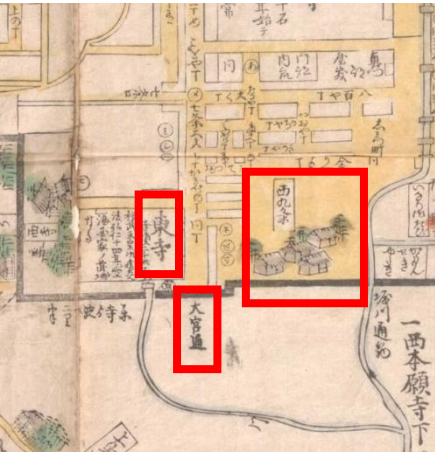
2-9 八条通から北門への眺望
：土堀が続く。学校の校舎が見える。



2-10 八条通から西への眺望
：空地が点在し、比較的新しい建築物が多い。

■ 3 東寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 東寺東側				参考写真等	
ア エリアの歴史等	・ 大部分が旧西九条村にあたる。西九条は鎌倉期から戦国期に見え、山城国紀伊郡のうち東九条と対をなす地名。 ・ 西九条村は江戸期から明治22年までの村名で、江戸初期に一部が市街化した。 ・ 寛永年間刊「毛吹草」に名産として直桑・青瓜・芋・水菜・藍とある。				
イ 町並みの特徴	・ 京都駅が近く、堀川通、大宮通、九条通などの大通りには、商業施設やホテル・事業所などが立ち並ぶ。近鉄電車の高架線路が走る。近年は特に開発の速度が速く、新旧建築物の入れ替わりが速く、新しい小規模建築物が目立つ。しかしながら、一步入ると昔ながらの長屋や敷地の小さな古民家・銭湯などが建ち並ぶ。一部は、本願寺・東寺界わい景観整備地区に指定されている。 ・ 空地が駐車場として利用されているところが多い。主な道路の幅員は比較的広いが、路地も多い。 文化財等：郷土玩具平田、日の出湯				
ウ 景観形成方針	本願寺・東寺界わい景観整備地区	歴史遺産型美観地区	市街地型美観形成地区		
	古都の玄関の象徴である五重塔を背景とした町並みは、この地域らしい雰囲気醸し出している。	東寺の築地塀越しに見える木造建築の堂宇や五重塔の姿は、京都を代表する風景の一つであり、その特性を継承する。	当該地域内には、大規模公共施設とともに、活気あふれる下町の風情を醸し出している。また、羅城門や西寺跡等の史跡にも恵まれている。		
エ 建築計画等に求める配慮事項	上記の特色ある景観を維持し又は整備すること。	建築物は、門前町の風情の保全に配慮する。東寺に面する敷地では和風基調の町並みを保全、創出し、その他では町並みの基調となっている京町家との調和を図る。	建築物等は、京町家等の歴史的町並みを残す地域においては、外観に和風意匠等を取り入れるなど歴史的な町並み景観の形成を図り、その他の地域は屋上景観等の整備に努め、良好な市街地景観の創出を図る。		
2 東寺西側				参考写真等	
ア エリアの歴史等	・ 大部分が山城国葛野郡旧八条村にあたる。江戸期から明治22年までの村名で、「京都府地誌」によると、七八条村(七条通と八条通の間)、西八条村(東寺の西側)、東寺廻り(東寺周辺)の3区分があったとされる。もっぱら農業を営み、多くを当時の京都(およそ現在の都心4区)に出荷していた。				
イ 町並みの特徴	・ この地域は六孫王神社・念佛寺、羅城門跡など、社寺や史跡が点在し、所々に虫籠窓のある古民家が残る。整然とした街区には比較的小規模な住宅が多く立ち並び、落ち着いた環境である。 ・ 九条通沿いには事業所、銀行、商店などが立ち並ぶ。東寺近くでは町家を利用した小規模な民泊が数多く見られる。東寺の五重塔は遠方からも見ることができ、地域にとっては歴史あるランドマークである。 ・ 比較的緑地が少ない地域であり、東寺の豊かな緑風景は歴史的なだけではなく、貴重な自然景観である。 文化財等：六孫王神社				
ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区	市街地型美観形成地区	沿道型美観形成地区		
	東寺の築地塀越しに見える木造建築の堂宇や五重塔の姿は、京都を代表する風景の一つであり、その特性を継承する。	当該地域内には、大規模公共施設とともに、活気あふれる下町の風情を醸し出している。また、羅城門や西寺跡等の史跡にも恵まれている。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。		
エ 建築計画等に求める配慮事項	建築物は、門前町の風情の保全に配慮する。東寺に面する敷地では和風基調の町並みを保全、創出し、その他では町並みの基調となっている京町家との調和を図る。	建築物等は、京町家等の歴史的町並みを残す地域においては、外観に和風意匠等を取り入れるなど歴史的な町並み景観の形成を図り、その他の地域は屋上景観等の整備に努め、良好な市街地景観の創出を図る。			
				3-4 「京圖名所鑑」安永7年(1778)	
				3-5 壬生通を蓮花門から北への眺望	
				3-6 東寺西側の町並み。小規模な住宅が立ち並ぶ。	
				3-7 九条通の町並み	



3-1 「京大繪圖 新撰増補」貞享3年(1686)：「西九条」「大宮通」の記載がみられる。



3-2 東寺通から東寺東門への眺望。新旧建築物が混じる町並み。



3-3 大通りでは、遠くからでも五重塔が見える。



3-4 「京圖名所鑑」安永7年(1778)



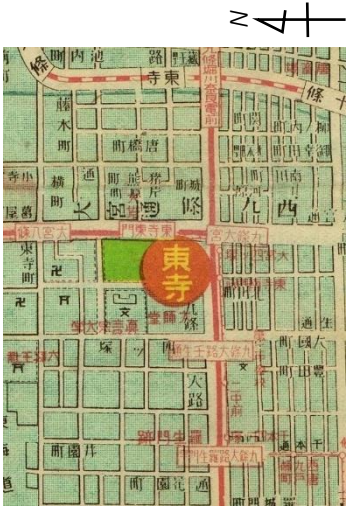
3-5 壬生通を蓮花門から北への眺望



3-6 東寺西側の町並み。小規模な住宅が立ち並ぶ。



3-7 九条通の町並み

3 東寺南側		参考写真等	
ア エリアの歴史等	・この地域は明治末期まで耕作地であり、市街化が進みだしたのは明治期以降である。 ・明治10年(1877)に神戸ー京都間の鉄道が開通、同29年に七条ー奈良間が開通した。 ・明治33年に京都府第二中学校(後の鳥羽高等学校)が創立し、大正期に徐々に市街化が進む。 ・昭和に入ると区画整理が進み、昭和14年(1939)に京都市電の九条線が全線開業する。(図3-8)。		
イ 町並みの特徴	・九条通、堀川通は交通量も多く、中層のビルやホテルが建ち並ぶ。一方、路地に入ると2階建ての住宅が密集している。 ・大宮通は昔ながらの庶民的な商店などが並んでいる。 ・エリアの西側には所々に空地が点在している。 ・エリアの南部には学校・工場・病院・水道局などが大きな敷地を占めている。公園は点在しているものの、全体に、開発が進み、空地はほとんど見られない。 ・エリアの東側には、近鉄京都線の高架があり、周囲は新しい住宅地が広がっている。 文化財等：伊藤家、寿湯		
ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区	町並み型建造物修景地区	沿道型美観形成地区
	東寺の築地堀越しに見える木造建築の堂宇や五重塔の姿は、京都を代表する風景の一つであり、その特性を継承する。	東寺周辺は、歴史的な町並みを残しているが、主に住宅地や学校などの教育施設が立ち並んでいる。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。
エ 建築計画等に求める配慮事項	建築物は、門前町の風情の保全に配慮する。東寺に面する敷地では和風基調の町並みを保全、創出し、その他では町並みの基調となっている京町家との調和を図る。	建築物等は、まとまりのある町並み景観を形成するため、建築物の屋上デザインや色彩等の統一感を図る。	

3-8 京都區組分細圖(明治14年(1881))

3-9 ビルが並ぶ堀川通



3-10 昔ながらの商店や住居が並ぶ大宮通



3-11 近鉄の高架沿いの町並み

- 3-1 「京大繪圖 新撰増補」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-4 「京圖名所鑑」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-8 「京都區組分細圖」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)